

2003年11月アルゼンチンの政治情勢

2003年12月作成
在アルゼンチン大使館

1. 概要

地方選挙では、二つの州でペロン党が州知事のポストを奪取し、本年の一連の選挙は終了した。社会的には、ブエノスアイレス州の治安情勢の悪化及びピケテロ・グループ（失業者・貧困者団体）の抗議運動活発化により国民の不満が増大した。それら対応を巡って、キルチネル政権と同政権を支えるドウアルデ派の意見の相違が表面化、一時両者の関係に軋轢が生じるなど政治問題となるまでに発展した。

外交面では、キルチネル大統領は、イペロアメリカ・サミットに出席したものの、サミットにはほとんど参加せず、また、ボリビア大統領とは会談しない一方でボリビア反政府勢力の指導者であるモラレスと会談したり、軍政期の人権問題に絡んでバジェ・ウルグアイ大統領に不満を表明したり、様々な言動が国内外で大きな反響を呼んだ。また、ビエルサ外相は、日本を訪問し、両国間の懸案事項である債務問題等に関し意見交換を行うとともに、政治、貿易、経済、技術・文化協力といったより幅広い観点から、両国関係を中長期的に展望していくことの重要性を確認した。

2. 内政

(1) 地方選挙

(イ) チュブット州

11月9日、州知事選挙、連邦議会の上下両院議員改選選挙が実施された。州知事選挙では、野党ペロン党のダスネベス候補が得票率45.59%を獲得し、現職のリスルメ候補（急進党）に4ポイント差をつけて勝利した。上院議員改選選挙（定数3議席）では、ペロン党が2議席、急進党が1議席を、下院議員改選選挙（定数3議席）がペロン党が2議席、急進党が1議席を獲得した。

(ロ) サルタ州

16日、州知事選挙、連邦議会の下院議員改選選挙が実施された。州知事選挙では、与党ペロン党候補で現職のロメロが得票率49.54%を獲得し、ソトス候補（サルタ革新党—地方政党）に25ポイントの差をつけて圧勝し三選を果たした。下院議員改選選挙（定数4議席）では、ペロン党が2議席、サルタ革新党が1議席、サルタ同盟（急進党、ペロン党反ロメロ派）が1議席を獲得した。

(ハ) エントレリオス州

23日、州知事選挙、連邦議会の下院議員改選選挙が実施された。州知事選挙では、野党ペロン党のプスティ候補が、得票率44.62%を獲得し、与党急進党のバリスコ候補に10ポイントの差をつけて勝利した。下院議員改選選挙（定数4議席）では、ペロン党

が2議席、急進党が1議席、エントレリオス新同盟（ペロン党反ブスティ派）が1議席を獲得した。

（二）コリエンテス州

23日、連邦議会の上下両院議員改選選挙が実施された。上院議員改選選挙（定数3議席）では、与党拳国戦線（急進党とペロン党ドウアルデ派）が2議席、新党（ペロン党メネム派）が1議席を、下院議員改選選挙（定数4議席）では、拳国戦線が2議席、新党が1議席、地方政党連合が1議席を獲得した。

（ホ）サンルイス州

23日、連邦議会の下院議員改選選挙（定数2議席）が実施され、与党ペロン党が得票率71.45%を獲得し議席を独占した。

（ヘ）ティエラデルフエゴ州

23日、連邦議会の下院議員改選選挙（定数3議席）が実施され、共和国平等党、ペロン党（与党）、急進党がそれぞれ1議席を獲得した。

（2）司法

（イ）最高裁判所の人事

17日、最高裁判事による会合が開かれ、賛成多数で最高裁長官にエンリケ・ペトラッキを、副長官にアウグスト・ベルッシオを指名した。正式な就任は、2004年1月1日で、任期は3年間である。

（ロ）司法弾劾審議

6日、下院司法弾劾委員会は、バスケス最高裁判事に対して15の案件に関する職務の不適切な遂行を理由に弾劾審議を進めることを決定した。

（3）テロ

（イ）イスラエル共済会館（AMIA）爆破事件

5日、元イラン諜報機関員であるMesbahiは、在独亜大使館より9時間に亘ってテレビ会議で証言を行った。その中で、同人は、イラン政府が同爆破事件を計画し、実行した旨改めて明らかにした。

（ロ）テロ攻撃の警告

26日付け主要紙は、亜政府筋の情報として、外国諜報機関がブエノスアイレスまたは（及び）香港で、米、英、伊、西あるいはイスラエル各国機関を標的としたテロ攻撃が行われる可能性があるとして警告した旨報じた。右報道に対し、パンブーロ国防相は、その事実を認め、情報が複数の筋から得られたものであると述べた。また、政府は、上記各国大使館及び各国関連施設をはじめ、国境、港、空港、原子力施設の警備を強化した。

（4）抗議運動

(イ) サルタ州

21日、ヘネラルモスコニで、約150名のピケテロ・グループ（失業者・貧困者団体）強硬派が、石油会社事務所に通じる幹線道路を17日間封鎖した容疑で逮捕された同僚7名の釈放及び同社民営化に伴う元職員への補償金の遅延分支払いを求めて、同事務所に侵入、略奪し、火をつけ、事務所を焼失させた。

(ロ) ネウケン州

25日、社会保障給付手続きの透明化を高めるためデビットカードを通じて支給するとした州政府の政策に猛反発したピケテロ・グループは、申請会場近辺で抗議運動を実施した。当初、会場警備を担当していた治安当局は静観していたが、抗議運動側から投石が始まると、やむなく催涙ガス及びゴム弾を使用して応戦した。その結果、両者が衝突し、30名近くの負傷者がでた。

(ハ) ブエノスアイレス市及びブエノスアイレス州

ピケテロ・グループ穏健派及び強硬派は連日のように、更なる社会保障政策等を求めて、大統領府前の五月広場や国会議事堂及び労働省前で抗議運動を展開した。また、強硬派のMTRは7日より3日間、政府に住居を求めて、新興高級住宅街近くの空き地を占拠し、テントを張って抗議運動を行った。

3. 外交

(1) イベロアメリカ・サミット

11月14、15日の両日、キルチネル大統領は、ビエルサ外相及びアルベルト・フェルナンデス首相とともに第13回イベロアメリカ・サミットに出席するためボリビアを訪問した。

(イ) 15日、キルチネル大統領は、ルーラ伯大統領、ラゴス智大統領、フォックス墨大統領との朝食会に出席し、F T A A交渉におけるそれぞれの政府の立場を確認し、共同歩調をとることを模索したほか、ボリビアの安定化に関し意見交換を行った。

(ロ) 15日、キルチネル大統領は、チャベス・ベネズエラ大統領と会談した。両首脳は、互いに自国への訪問を招待し、その場でキルチネル大統領は、年内のベネズエラ訪問を示唆した。その他、会談中に、両大統領の合意の下、ボリビアの反政府勢力指導者であるモラレスが急遽加わり、キルチネル大統領は、同人の制度改革計画への積極的な支持を表明した。

(2) チリ

9日、在プンタアレナス亜領事館にチリ軍情報部員2名が侵入し、機密文書の盗難を図ったとされる事件が起こった。右事件に関し、10日、ラゴス智大統領は、キルチネル大統領と電話で15分間会談し謝罪した。それに対し、キルチネル大統領は、ラゴス大統領の対応に満足の意を表明しつつも、事件の重大性を指摘し真相解明を求めた。その他、バ

ウチェレット智国防相は、パンプーロ国防相に電話で謝罪し、責任者を処罰する旨伝えた。

(3) 西

11日から14日にかけて、カルロス国王夫妻がパラシオ外相とともに亜を訪問した。12日には、大統領府でキルチネル大統領と会談したほか、第二回亜西フォーラムに出席した。その後、キルチネル大統領夫妻同行の下、大統領の地元サンタクルス州のエル・カラファテを訪問し、ペリト・モレノ氷河を見学した。翌13日には、ブエノスアイレスに戻り、西人画家カノガル展、在亜西団体との会合に出席し、サンマルティン宮殿（亜外務省別館）で開かれたキルチネル大統領主催の晩餐会に出席した。一連の行事において、カルロス国王は、亜政府を支援する意思を表明し、西企業は引き続き亜に投資するだろうとの見解を示した。

(4) 米国

20、21日の両日、リキンス米務省次官補（政治・軍問題担当）が、亜を訪問し、定例の亜米安全保障協議会に出席した。協議会後の記者会見において、リキンス次官補は、先の共同軍事演習の中止に関し遺憾の意を表明したほか、イラク復興支援活動について、公式な要請は行っていないが、亜軍が参加することを望むと述べた。

(5) 日本

26日から30日にかけて、ビエルサ外相は、タイアナ外交政策次官、レドラド国際通商次官他とともに日本を訪問した。滞在中、川口外相、中川経産相、亀井農水相といった閣僚をはじめ、日本商工会議所、日亜経済合同委員会、日本貿易振興機構（JETRO）、国際協力機構（JICA）の関係者を訪問し懇談を行った。また、日亜友好議員連盟とも懇談した。28日に行われた川口外相との会談及びワーキング・ディナーでは、債務問題等の二国間の懸案、政治安全保障関係、貿易投資関係、経済技術協力、文化交流、国際的・地球的規模の問題について幅広く話し合った。また、両国の関係を中長期的視点から展望することの重要性について意見の一致を見た。

(6) 中東地域

(イ) 11日、ビエルサ外相は、8日に起きたサウジアラビアにおける爆破事件に関して、サ우드・アル・ファイサル殿下（外相）宛に書簡を送り、亜政府及び亜国民の弔意及び連帯の意を表明した。

(ロ) 17日、亜外務省は、14日に起きたトルコにおけるシマゴーク連続爆破事件を強く非難するコミュニケを発出した。

(ハ) 20日、亜外務省は、トルコにおける英国総領事館ほか連続爆破事件を強く批判し、犠牲者の家族に弔意を表明したコミュニケを発出した。

(7) マルビーナス（フォークランド）諸島領有権問題

智からのマルビーナス諸島への航空便増発要請を拒否した亜外務省は10日、在亜英国大使館との間で亜から同諸島への航空便再開を協議している旨明らかにした。また、ビエルサ外相は、パラシオ西外相と電話で会談し、英国との交渉における仲介を要請した。

(8) 要人往来

(イ) 来訪

11-14日 カルロス西国王夫妻

17日 ラシドゥ・パラグアイ外相

20日 アマラル伯科学技術相

(ロ) 往訪

2日 シオリ副大統領、独立100周年記念式典に出席するためパナマへ

7日 ビエルサ外務大臣、F T A A ミニ閣僚会議に出席するため米国へ

9日 ベリス司法・治安大臣、M i c h e l i n e 外相及びC a l m y 司法相と会談するためスイスへ

14、15日 キルチネル大統領及びビエルサ外務大臣、第13回イベロアメリカ・サミットに出席するためボリビアへ

18-24日 ドゥアルデ次期メルコスール常設代表委員長(前大統領)、ルーラ伯大統領、ドゥアルテ・パラグアイ大統領、イグレシラス I D B 総裁と会談するため、伯、パラグアイ及び米国へ

22日 ラバーニャ経済大臣、イグレシラス I D B 総裁と会談するため米国へ

24-28日 シオリ副大統領、メルコスール企業ミッションの団長として墨へ

25日 フィルムス教育大臣、ブアルケ教育相と会談するため伯へ

26日 ドゥアルデ次期メルコスール常設代表委員長、ラウ独大統領と会談するためウルグアイへ

26-30日 ビエルサ外務大臣、川口外相、中川経産相及び亀井農水相他と会談するため日本へ